

1章『バトルとアイドル』9

カノンは、無数の蛇に体中

まわりつかれた直後から何
度も、スティックに向かって、

「蛇をどうにかして」「蛇、消
えろ」「蛇を倒して」と念じて

いたのだが、スティックはうん
ともすんとも反応しなかったの
だった。

「この棒、全然役に立たない
じゃない！ ちょっとパンチ！
なんとかしてよ！」

カノンは大声でわめいていた
が、腕や足や首に今にも噛みつ
きそうに牙を剥いてまわりつ
く毒蛇たちを前に、正気を失
いそうになってきた。

「あみたん、助けて！」
カノンが空中に浮かぶあみ

あみたん娘 The NOVEL

⑬
酒井 直行

たんに、今度はお願ひするよう
に叫んだ。

「お願ひ、あみたん！」

セシルも声を上げた。

「無理だ。僕には助けること
ができない。僕が君たち2人に

「んない」。カノンが頬を膨らま
せ、ぶーたれた。

「あなた、相変わらず詰めが
甘い仕事をしているのね」

九谷焼姫が、あみたんを見上
げ、懐かしそうにイヤミを言っ

いるようだった。

「とにかく、戦うんだ！」

「だから無理なんだって！」

「なんで私たちがこんな目に
遭わなければならぬのよ！」

戸惑い恐怖するカノンとセ
シルのパニックはピークに達し

た。「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」

「何？ 何？ 何？」



キャラクター原案 松原 秀典
イラスト 那智 泉見

与えた法力のみで戦わなけれ
ばならないんだ」

あみたんが視線をそっと背け

た。

「何そのルール？ 意味分か

互に見比べた。

「僕は知らない！」

あみたんが言い切った。だが
その極めて断定的な言い方は、
明らかに知っている風を隠して

「私たちは、あみたん娘よ
ない！」

「私たちが、あみたん娘よ
ない！」

「私たちが、あみたん娘よ
ない！」

「私たちが、あみたん娘よ
ない！」

「私たちが、あみたん娘よ
ない！」

「私たちが、あみたん娘よ
ない！」

その刹那、カノンとセシルの
体が光に包まれた。